



理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

基本方針

- ・ 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- ・ 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- ・ 二次医療を中心に担当します。
- ・ 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- ・ 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

倉繁拓志先生の修業記

完結編

ここに
倉繁先生

2017年8月からクリーブランドへ留学しておりましたが、2年間の任務を終え2019年8月1日付けで再び泌尿器科でお世話になります。クリーブランドでは基礎研究が主体だったので、臨床については少し空白期間ができ、皆様にご迷惑をかけることもあるかと存じますが、精進して参りますのでよろしくお願いいたします。

今まで修業記を読んでもくださった皆さまには最後回となりますが、今回は帰国する直前に参加した学会について報告します。

アメリカ泌尿器科学会 (AUA) 5月/シカゴ

5月のAUAは私自身の発表はないために当初は不参加の予定でしたが、場所がクリーブランドから比較的近く、学会の日程も週末にかかっていたため、ラボのボスと相談して急遽参加してきました。泌尿器科関連の学会に参加するのは2年ぶり、AUAに参加するのは10数年ぶりで、最近のトピックにどこまで着いてけるか正直不安な気持ちがありました。ビデオセッション(手術の演題)を中心に聴取しましたが、予想通りほとんどがロボットの演題だったためにいつも以上に集中力を要しました。また、私の留学先であるクリーブランドクリニックの泌尿器科も多数の演題を出しており、手術のテクニカルなことだけではなく、臨床研究、統計(症例数)など、その内容に今更ながら圧倒されていました。AUAの参加は私自身が遠ざかっていた臨床の知見を再確認するためでもあったのですが、ロボットでの手術や新薬による薬物療法など、2年前と比較して随分と変わっている印象でした。

シカゴはニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐ第三に大きい都市で、学会の合間を縫ってシカゴ美術館などの観光も楽しみました。夜は岡山大学から参加していた日本の同僚達とクリーブランドから参加していた他大学の先生方、計6名で日本風居酒屋に入り久しぶりの美酒に酔いました。

アメリカ移植学会 (ATC) 6月/ボストン

6月にボストンで開催されたATCは、ラボから毎年演題を出しており、私の研究内容が移植の基礎研究であったため、私もポスターで発表してきました。私のアメリカ生活での一つの大きな節目のため、事前にしっかり準備し、学会に臨みました。発表についてはボスも私を気にかけてくれていたようで、会場に同席し、私が質疑に答える前に色々と返答してくれました。私の発表は5日間の会期の第2日目だったので、発表後はゆっくりと他の演題を聴取することができました。文字通りこの学会は移植がテーマのため、泌尿器科関連のみならず、肝臓、膵臓や小腸などの幅広い分野の移植で基礎から臨床まで多岐にわたっており、日本からの演題も幾つかあったので、興味深く聴いていました。また、岡山大学泌尿器科から同門の先生がコロンビア大学のThe Columbia Center for Translational Immunology(CCTI)に異種移植(ブタからサルへの移植など)の研究のために留学しており、その先生とも久しぶりに旧交を温めることができました。学会場のみならず、その後の夕食も日本から移植医として渡米している先生や他の施設に研究に来られている先生方とお互いの渡米してからの苦労話や失敗談、今後の展望などで夜遅くまで話に花を咲かせました。

これらの学会発表、参加が私のアメリカでの最後の仕事となりました。2年間の留学に関わった方々に感謝を申し上げますと共に、この貴重な経験を今後の診察・治療・研究に活かしていく所存です。



ATCで岡山大学の同僚と

たくさんのご来場ありがとうございました 病院まつりを開催しました!

8月3日(土)、当院では昨年に引き続き、第2回鳥取市立病院まつりを開催しました。

各社が公表する「なりたい職業ランキング」において、医師や看護師などの医療職は上位にランクインするほどの人気職となっています。でも、興味はあるけど、「医師、看護師ってどんなことするの?」「病院の中ってどうなってるんだろう」などと疑問を持っている子どもたちに、見て、触れて、医療職の入り口を体感してもらうことで、医療のこと、病院のことについて関心を持ってもらえたらと思っています。

今年も楽しみながら医療職を体験できる「医療職体験コーナー」や、病院内を見学する「病院探検ツアー」など、各職種がそれぞれの特性を活かした企画を用意し、多くの子どもたちに参加していただきました。その中の様子を一部ご紹介します。

医療職体験(医師・看護師など)

医師体験は「めざせ整形外科医!」と題して、骨折時に負傷部を固定するギプスづくりを体験しました。子どもたちは先生役、患者役に分かれて、先生役の子どもは白衣を羽織って電子カルテの前に座り、患者役の子どもにギプスを装着しました。また、中村先生の骨折の授業も好評でした。看護師体験はナース服に着替えて、お父さん・お母さんの血圧を測定したり、包帯を巻くなどの看護師のお仕事を体験しました。

その他にも、薬剤師体験では、お菓子を薬に見立てて処方箋に沿って調剤を体験したり、放射線技師体験では、MRIの磁力を使った実験なども行いました。



病院探検ツアー

検査や治療以外で入る機会が少ないCT室、血管撮影室、内視鏡検査室、手術室を見学していきました。それぞれの部屋ではたくさんの器械があり、その大きさや珍しさから子どもたちは興味津々。内視鏡検査室では、相見先生が内視鏡について説明をすると、熱心にメモをとっている子もいました。

手術室では手術衣に着替えて、手袋・ゴーグル・マスクも装着してフル装備で手術室内を見学しました。実際に手術で使用している機材を見たり、无影灯の下で道具に触れてみたりして、気分は手術中の先生です。



イベント盛りだくさんでした!

オープニングイベントでは、「チアダンスレインボー鳥取」によるダンスショーが行われ、かわいらしくキレイのあるダンスで華やかなオープニングを飾りました。

その他の催しものとしては、「薬剤師体験」「顕微鏡をのぞいてみよう!」「なりきり写真館」「粘土細工工房」や、屋外では、「出動!緊急車両!」「火事の煙は怖いぞ!」などのイベントを行いました。多くの方にご参加いただきありがとうございました!



夏休みの職業体験

高校生・予備校生医療体験

当院では、毎年夏休み期間中に鳥取県東部の高校生・予備校生を対象に、医療・看護師体験学習を行っています。今年は医療体験を令和元年8月5日(月)～8日(木)の4日間、看護師体験を8月6日(火)～7日(水)の2日間行いました。夏休み中に医療現場の体験ができるとあって、医療体験には55名、看護師体験には56名と、大変多くの生徒にご参加いただきました。

当日は、医師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、管理栄養士、そして看護師の10職種からそれぞれ希望する職種の現場に入り、職業体験はもちろん、職場の見学や仕事内容の説明を受けたりしました。また、その職に就くための方法・知識・資格などのアドバイスをもらうなど、充実した時間となったようです。

希望職種のことをインターネットでいろいろ調べている生徒さんでも、体験に来てみて現場目線での仕事内容を詳しく聞くことができよかったですと感想を述べられていました。

希望された職種の知識だけでなく体験をすることで、将来の進路選択に役立てていただければと思います。



第62回 市民医療講演会共催事業

鳥取市認知症フォーラム2019

講演

認知症とともに生きる

おれんじドア実行委員会代表 丹野 智文 さん

対談

認知症になってもよりよく暮らしていける地域を創っていこう

おれんじドア実行委員会代表 丹野 智文 さん

日本認知症本人ワーキンググループ代表理事
藤田 和子 さん

開催日時

令和元年 8月 31日(土) 10:00～12:00

会場

さざんか会館 5階大会議室

駐車場はさざんか会館駐車場、鳥取市役所駅南庁舎駐車場をご利用ください。

手話を使ってみよう!

ラグビー

9月から開幕するラグビーワールドカップ2019日本大会にちなんで、今回のテーマは「ラグビー」です。

脇にラグビーボールを持つようなポーズをして…



投げ渡すような動作をします。

